



シンポジウム

誰もが参加できる
オリンピック・パラリンピック文化プログラム

地域・アート・共生

障がいのある人の文化芸術活動に焦点を当て、人種や性別、世代、障がいの有無などを超えて
多様性を理解しあえる社会を目指して、誰もが参加できる文化プログラムのあり方や楽しみ方を考えます。

2017年2月9日(木)

15:00~17:30

(開場: 14:30)

りゅーとぴあ

新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

定員: 900人 **入場無料** (要申込)

要約筆記、手話通訳、保育あり

※参加者、保育とも、応募多数の場合抽選



為末 大

元プロ陸上選手



湯浅 真奈美

ブリティッシュ・カウンシル
アーツ部長



肥田野 正明

パウハウス代表取締役



宮田 亮平

文化庁長官



太下 義之

三菱UFJリサーチ&コンサルティング
芸術・文化政策センター長



篠田 昭

新潟市長

問い合わせ先 新潟市役所コールセンター 025-243-4894

主催: 新潟市(事務局 文化創造推進課 025-226-2554)、アーツカウンシル新潟 共催: 創造都市ネットワーク日本(CCNJ)

文化庁 平成28年度文化庁文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業



誰もが参加できる
オリンピック・パラリンピック文化プログラム

地域・アート・共生

2017年2月9日(木)

15:00~17:30

(開場:14:30)

15:00~オープニング

日中韓3カ国語による「わたしは未来」合唱ほか
新潟市ジュニア合唱団

15:30~パネルディスカッション

参加申し込み

往復ハガキに、①2月9日オリ・パラ文化プログラムシンポジウム、②代表者住所・氏名・連絡先電話番号、③参加者全員の氏名(2人まで)、④保育希望の有無(希望の場合、名前、年齢(生後6か月以上~未就学児)も)を記載し、新潟市文化創造推進課(951-8550、住所記載不要)へお送りください。

※ 返信面に、返信先の住所、氏名を忘れずに記入してください。

※ 申込多数の場合は抽選となります。抽選結果は、1月中に返信ハガキで通知します。(返信ハガキは当日の入場券として大切に保管してください。)

<申込締切:2017年1月20日(金)必着>

会場

りゅーとぴあ

新潟市民芸術文化会館コンサートホール
(新潟市中央区一番堀通町3-2)

会館のご案内



2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、全国各地で文化プログラムが始まりました。2012年ロンドン大会では、障がいのあるアーティストの創造的な活動を支援する「アンリミテッド」がレガシーにつながる文化プログラムとして注目を集めました。

シンポジウムでは、障がいのある人の文化芸術活動に焦点を当て、人種や性別、世代、障がいの有無などを超えて多様性を理解しあえる社会を目指して、誰もが参加できる文化プログラムのあり方や楽しみ方を考えます。

パネリスト



為末 大 元プロ陸上選手

1978年広島県生まれ。スプリント種目の世界大会で日本人として初のメダル獲得者。2001年エドモントン世界選手権および2005年ヘルシンキ世界選手権において、男子400メートルハードルで銅メダル。シドニー、アテネ、北京と3度のオリンピックに出場。男子400メートルハードルの日本記録保持者(2016.12現在)。2012年現役引退後、現在は、自身が経営する株式会社侍のほか、一般社団法人アスリートソサエティ、株式会社Xiborgなどを通じて、スポーツと社会、教育、研究に関する活動を幅広く行っている。



湯浅 真奈美 プリティッシュ・カウンシル アーツ部長

大学卒業後、国産産業見本市主催会社の広報部を経て、独立系の映画配給会社の劇場宣伝部に所属。宣伝プロデューサーとして、劇場公開映画の広報宣伝などを担当。1995年、英国の公的な国際文化交流機関、ブリティッシュ・カウンシルのアーツ部門に所属。2005年より現職。日本におけるブリティッシュ・カウンシルのアートプログラムを統括。日英両国の文化機関と連携し、文化芸術を通じた日英間の交流事業、人材育成プログラムなどを手がけている。



肥田野 正明 株式会社バウハウス代表取締役

新潟青年会議所時代に特別支援学校の職業学習指導や障がい者就労に向けたソーシャルビジネスを考案。その後もソーシャルビジネス、ビルメンテナンス業を運営し、障がい者も経済活動を営むことができる社会を創造。コミュニティの中で一人ひとりが誇りを持って働けるよう、地域の中で多様な役割をつくり出し、持続可能なビジネスモデルを提案し続けている。《提案・参画プロジェクト》まちごと美術館ことごと、新潟市障がい者雇用支援企業ネットワークみづばち、市民委員会N-VISIONプロジェクト等。



宮田 亮平 文化庁長官

金工作家。新潟県佐渡に2代目宮田重堂の3男として生まれる。1972年東京藝術大学大学院美術研究科工芸専門課程(銀金専攻)修了。イルカをモチーフとした「シュプリング」シリーズなどの作品で、「宮田亮平展」(嵐展)をはじめ、国内外で多数の展覧会に参加。「日展」内閣総理大臣賞や「日本現代工芸美術展」内閣総理大臣賞など数々の賞を受賞。2012年第68回日本芸術院賞受賞。2005年から2期10年に渡り東京藝術大学学長を務めた後、2016年4月文化庁長官に就任。「東京2020エンブレム委員会」委員長も務めた。



篠田 昭 新潟市長/創造都市ネットワーク日本(CCNJ)代表

新潟市生まれ。上智大学外国語学部卒業。新潟日報社編集局学芸部長兼編集委員などを経て、2002年に新潟市長選に初当選。近隣14市町村との合併をまとめた後、2007年4月、本州日本海側で初の政令指定都市移行を実現。文化芸術を活かしたまちづくりの取組が評価され、新潟市として、2013年文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を受賞。2015年には「東アジア文化都市」に選定。現在4期目。主な著書に「水と土の文化王国にいがた」、「新潟力」等。

モデレーター



太下 義之 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター/主席研究員・センター長

日展理事、静岡県舞台芸術センター評議員、企業メセナ協議会監事。文化経済学会<日本>監事、文化政策学会理事。コンテンツ学会理事、政策分析ネットワーク共同副代表。文化審議会文化政策部会委員(〜2015.3)、観光庁「世界に誇れる広域観光周遊ルート検討委員会」委員。東京芸術文化評議会委員、大阪府・大阪市特別参事(〜2015.3)、沖縄文化活性化・創造発信支援事業(沖縄版アーツカウンシル)アドバイザー/ボード委員、福岡市食文化創造都市アドバイザー等のほか、新潟市関係では、文化創造推進委員会委員長、文化・スポーツコミッションアドバイザー等多数兼務。

「わたしは未来」とは

2012年、当時東京藝術大学学長だった宮田亮平文化庁長官が「世界中の子どもたちが歌える歌」と発案し、同大学の松下功副学長が作曲、作家の夢枕獏氏が作詞を行い、中国・韓国の芸術家により翻訳された合唱曲。

新潟市ジュニア合唱団

新潟市芸術文化振興財団が主宰する音楽教室。現在、歌の大好きな小学2年生から高校3年生まで約120名で構成。歌曲・宗教曲等のクラシック音楽、日本の歌、ポピュラー、合唱ミュージカルなど多彩なレパートリーを持つ。年1回の定期演奏会をはじめ、市内や県内の少年少女合唱団との交流演奏会のほか年間を通して活発に活動。2015年の東アジア文化都市交流で、中国・青島市、韓国・清州市のジュニア合唱団と同曲を通じた合唱交流を行った。

